

まちづくり ひろしま

第31号 (平成29年9月15日)

読者数：597名 (募集中)

メール：hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

□ 巻頭言 広島市<中央公園>及び周辺地域の今後のあるべき姿 — 建築家の立場からの提案 —

日本建築士会連合会 名誉会長
現代計画研究所会長 藤本昌也



すでに50年も前のことである。私は建築家大高正人(故人)のもとで、故郷広島のとく基町高層団地>(以下、<M 団地>と略称する)の設計に携わっていた。故郷への思い入れもあって、使命感に駆られ、悪戦苦闘していた当時を振り返りながら、私なりに表題の問い掛けに答えてみたい。

□ <M 団地>に求められた2つの前提と課題

広島のとくまち>は東・西・北の3方を緑の山並みで囲まれ、南は小島の浮かぶ美しい海並みが広がっている。しかも、平地の市街地には6つもの大きな川が流れている。見事な山並み、川並み、海並みが揃う、まさに美しい水の都、広島である。

この広島のとくまち>特有の魅力的な都市環境構造(風景)と見事に呼応し、美しく調和する<M 団地>のあるべき姿を探ることが、私たち設計者に求められた第1の前提だった。

しかし一方、<M 団地>の建設に当たっては、市から提示された、もうひとつの前提があった。高層高密度の設計手法による大量公共住宅(3008戸)建設の実現である。これまでに例を見ない高層化、高密度化を前提とした設計手法に、果たして納得できる解があるのか。設計者にとっては、先の見えない厳しい第2の前提だった。

もともと復興に向けて1946年に制定された都市計画では、<M 団地>を含む周辺地域一帯は全て、南の原爆ドームや広島平和公園につながる大パブリックオープンスペース(中央公園)に指定されていた。市の中心部を南北に流れる太田川と一体となって計画されたこのシンボリックな空間演出こそ、復興平和都市建設を目指す広島市都市計画の要の役割を果たすはずだった。

だが、写真①をよく見ていただきたい。当時の<中央公園>計画予定地のほとんどが、原爆で全てを失った多くの市民の応急木造住宅で占められていた。この事態を前にして、市の選択肢はただひとつ。“全ての居住者を公共住宅政策で救済しなければ、広島戦後は終わらない。”とも考えてきた市は、1956年都市計画を変更、<中央公園>用地の北半分を住宅用地に転換、大量公共住宅建設(中層団地、M 団地、計4000戸余)の実施を決断したのである。



写真① M 団地エリア

私たち設計者は、この高層化・高密度化構想を前提に、①住み心地の良い居住環境の実現、②周辺環境と調和する都市景観の形成、という厳しい設計課題に挑戦するしかなかった。時間をかけ、出来る限りの知恵を出し、様々な設計手法を提案した。幸い、提案の多くが地域住民や行政の方々に受け入れられ実現した。ここの場所だからこそ、山の連なりを思わせる独特な風景が誕生した。(写真②)



写真② 対岸からの全景(撮影 M. TAKAHASHI)

□ 今後の〈あるべき姿〉を考える上での基本理念

下記はある雑誌に私が最近寄稿した文章の一節である。

『考えてみれば、わが国の 20 世紀後半は、高度経済成長を背景に、〈建築〉づくりを謳歌した時代でした。しかし、それは一方で、〈建築〉をつくり過ぎ、貴重な建築遺産や豊かなくオープンスペース、緑を失った、ゆとりの無い建築過剰時代でもありました。

21 世紀に入り、超人口縮小化時代を迎えている今だからこそ、巷間言われている〈空地〉〈空家〉の問題を否定的に捉えるのではなく、“〈空地〉こそ最大の価値”との思いを共有し、〈空地〉を主役に、まちのリフォーム（まちの空間再編）に取り組むべきだと私は考えています。』

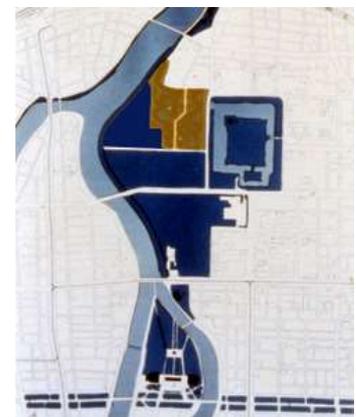
是非、〈住まい・まちづくり〉に関心を持つ多くの広島市民の方々に、この自省を込めた私の思いを共有していただきたいのである。そうなることを念じ、以下、冒頭の問い掛けに応えたい。

□ 今後の〈あるべき姿〉についての提案

終戦直後の広島復興都市計画の原点に戻り、当時の発想を基本に、今後の中央公園地域一帯の〈あるべき姿〉を提案したい。

提案のポイントは 3 つ。第 1 のポイントは、現在の中央公園用地を、地域関係者との合意を図りながら、時間をかけて、南北へ可能な限り拡張、最大化を図ること。市民は再び、冒頭に述べた如く、太田川沿いに平和公園、原爆ドームと一体となって広がる最大の価値〈大空地空間〉を取り戻すことになる。(図①)

第 2 のポイントは、この取り戻した〈空地〉を芝生と樹木とわずかな装備（ベンチ、外灯等）で構成された〈大緑地空間〉として整備すること。市民の誰もが〈自然〉そのもの、緑と太陽と空気を素直に精一杯楽しめればよい。市民の日常生活上の多様なニーズには、その時々で仮設的簡易木造建築で対応すればよい。何よりも、つくり過ぎないこと。殊に、大規模建築施設は論外。



図① 大空地空間計画案

この私の提案には、忘れてはならないもう一つの大事な狙いがある。この中央公園は、歴史的・文化的な意味で、人類にとって唯一の特別な〈場所性〉を有している。原爆で命を奪われた多くの方々への慰霊の場、平和への祈りの場、そして、反戦の意志を示す場でもある。この広島市民の変わることのない精神のあり様を表現することこそが、この“場”の空間整備手法に求められる最優先課題ではないかと私は考えている。

第 3 のポイントは、城跡公園が〈M 団地〉を介して、中央公園とオープンスペースとしてつながり一体化するために、団地中央の大規模中庭空間をより開放的な空間にリフォームすること。

設計に着手した時から私は、住宅団地が市民の大事な公園の一部を占拠し、周辺を閉鎖的な〈まち〉にしてしまうのではないかと、複雑な思いでいた。その思いを少しでも解消しようと提案し、市の英断で採用されたのが全棟総〈ピロティ方式〉（写真③）であった。確かに正解だった。しかし、中庭全面に都市施設導入のための 5m の高さの人工地盤が、結果として〈ピロティ方式〉の効果を半減させた。解決に向けて、店舗施設の再編と人工地盤の減築を合わせて進める〈まち〉のリフォームを検討して欲しい。



写真③ ピロティ方式

ひろしまのまちづくりの動き

① 「平和の鐘」讃歌を披露 ～第3回 響け！平和の鐘祈念式～

- ◆ 日 時： 平成 29 年 8 月 6 日（日）9：30～10：15 晴れ
- ◆ 場 所： 中央公園・ハノーバー庭園の南広場
- ◆ 主 催： 響け！平和の鐘 実行委員会

忘れ去られた2代目「平和の鐘」が今年も原爆の日に市民の手で打ち鳴らされた。そしてこの「鐘」をテーマにした合唱曲が初めて披露された。新曲は実行委員会が、大阪府泉佐野市在住、あきたかし氏（本名・水野喬）に作詞・作曲してもらった「鐘よ 平和の鐘よ」。広島合唱同好会（代表 大上義輝）の男女40人が、優しい響きの歌声で披露。参加者は市民ら150人。

再びの命が鳴らす 今日の音色は♪
優しく、清く、高らかに（中略）平和の鐘よ♪
さあ鐘よ、その高みから 世界へ響け♪

この「鐘」を歴史の彼方に忘れ去ることは被爆の惨禍を風化させることに繋がる。今こそ「鐘」の存在が広く知られ、後世に語り継がれなければならない。「鐘」を打ち鳴らす祈念式と合唱曲「鐘よ 平和の鐘よ」の発表で2代目「平和の鐘」の認知度がさらに高まることが期待される。

（実行委員会代表 高東博視）



原爆死没者に黙祷する参加者



「平和の鐘」の前で新曲を披露
読売新聞（8月7日）より

② サッカー場の中央公園配置案公表

広島県、市、商工会議所の3者は8月29日、基町地区住民との会合で、中央公園でのサッカー場の配置案を公表。

客席全面に屋根を架ける騒音対策や車の渋滞対策などの説明を行い、9月末までに概算工事費を算出して、他の候補地の旧市民球場跡地と広島みなと公園の2案と比較、検討して候補地を決めるといふ。

住民からは反対意見が相次いだようだが、一時的な騒音や渋滞の問題もあるが、日常的な視界の遮り（眺望権）や日陰（日照権）の方が周辺住民に与える影響が大きいのではないか。この場所よりも北側の中層基町団地エリア（約5ha）の方が適しているように思うが、中央公園全体のビジョンを示すことが先決である。その場しのぎの対応ではなく、大局に立ってサッカー場の建設地を決定すべきと思う。



配置案（読売新聞 8/31）

③ セトラひろしまが受賞記念パーティ開催

セトラひろしまは、「まちの活性化・魅力創出部門」で国土交通大臣賞を受賞したのを機に、この1年間に受賞した数々の賞を記念して祝賀会を7月18日、パルテにて開催した。

大イノコ祭りやアリスガーデン・パフォーマンス広場AH！などを支えたアーティストやボランティア、商店街、行政、ほか関係者約70名が参加。

AH！から育った書家や歌手たちが芸を披露して会場を盛り上げ、セトラひろしまの若狭理事長がセトラ誕生から15年間の活動記録を報告し、和気あいあいとしたパーティとなった。

以下、受賞名

- 広島市環境美化活動功労賞（地域環境プロジェクトチーム）
- 広島市みどり生きもの協会賞（ソーシャルガーデナー倶楽部）
- 第32回県民文化奨励賞
- ひろしま街づくりデザイン賞（大イノコ祭りを支える市民の会）
- まちづくり法人まちの活性化・魅力創出部門 国土交通大臣賞



若狭理事長挨拶



パーティ会場

○ 広島復興の軌跡・人物編 (第6回) ～平岡 敬市長～



～ハード整備からソフト文化事業へ～

バブル経済崩壊後の平成不況により、1994年の広島アジア大会の成功が危ぶまれるなか、1991年2月に荒木市長の跡を継いで2期8年の広島市長を務める。

アジア大会への膨大な投資から財政がひっ迫し、2期目に入るとハードな事業からソフトな文化事業等への転換を余儀なくされる。

また、戦後50年の節目を迎える市長として、戦前の韓国で過ごした少年期や中国新聞社時代の原爆報道等の経験が、平和問題等への取り組みに色濃く反映される。

・広島アジア大会の成功

市長就任早々、アジア大会に向けた基盤整備の目玉事業の一つ新交通システムの工事で橋げた落下事故が1991年3月に発生。冷や水を浴びせられた感じだが、なんとしても成功に導かなければならない。1991年の平和宣言で初めてアジアへの謝罪を盛り込み、アジアからの理解と協力を求める。またアジアの国々を歓迎するため、公民館による一館一国・地域の応援事業を実施し、42の国と地域が参加した第12回広島アジア大会【テーマ：アジア諸国間の平和と調和】を成功に導く。



これを機に市民の国際交流活動が芽吹き、大会終了後もカンボジアの「ひろしまハウス」建設、カザフスタンの核被害者支援、広島オマーン友好協会など、花開くこととなる。今年10月にはひろしま・カンボジア協会設立10周年の記念イベントが催される。

・ひろしま2045：ピース&クリエイト

1994年に「ひろしま新世紀都市ビジョン」を策定し、「**平和首都**」を目指すことを宣言。1995年の被爆50周年記念事業として「ひろしま2045：ピース&クリエイト」をスタートさせる。建築のデザインから個性ある都市景観を形成し、平和と創造のまちにしようという目的で2008年度までに9事業10施設が完了。

著名な建築家を呼んで「基町高等学校」「西消防署」「中清掃工場」等、話題になる建築を多く残した。外部の建築家が優遇されたため、地元建築家には不評もあったが、広島のに優秀な建築が集積したことは確かである。被爆100年の2045年まで続けて、世界に誇れる街にすることを目標にしたが、市長交代でトーンダウン。



中清掃工場

・原爆ドームの世界遺産登録に尽力

1992年、日本が世界遺産条約に加盟したのを契機に、原爆ドームを世界遺産に登録しようという機運が生まれた。しかし文化財でもない原爆ドームを世界遺産に申請することに文化庁は反対。そこで1993年に市民団体「原爆ドームの世界遺産化をすすめる会」を結成し、連合が中心となって全国的な署名運動を展開し、165万余の署名を集めた。その勢いを背に市議会で決議し、国会議員も動いて、1994年に原爆ドームを世界遺産リストに登録推薦する国会請願が採択。国は1995年に原爆ドームを史跡に指定し、世界遺産委員会に推薦。



1996年12月、「人類史上最初の被爆の惨禍を伝える歴史の証人として、また、核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボル」として原爆ドームの世界遺産登録が実現した。

・旧日銀広島支店の活用

日銀広島支店は被爆後も営業を続けていたが、1992年に中区基町に移転し、旧広島支店は空き家となる。1995年に広島平和記念都市建設法を適用して市への払下げを大蔵省に陳

情したが、門前払い。1996年に日銀が市への売却方針を表明し、市は被爆建物だけを保存する意向を表明。

秋葉市政になって2000年、平和記念都市建設法の適用が認められ、市が指定重要文化財に指定し、日銀は市へ無償貸与。同時に国の重要文化財に指定された場合には無償贈与する方針を決定。

翌年から暫定的活用を開始し、2005年から本格的に常時開館。遺構として一般公開され、芸術文化活動拠点としても幅広く利用されている。



・地下街紙屋町シャレオの建設

アジア大会に向けてアストラムラインが地下で本通りまで延伸。せっかく地下を掘るなら地下街を作ろうという機運が高まり、1990年に広島地下街開発株式会社を設立。平岡市長は地下街の建設促進を市長選の公約の一つに挙げ、本格的に取り組む。

全国初の国道直下の地下街である。原則、国道での営業は不可。また、静岡駅前地下街のガス爆発事故以来、規制が厳しくなるなど山積する難題を建設省（現国土交通省）、警察署、消防署などと調整しながらクリアし、1998年から工事に着手。

アストラムラインの県庁前駅と本通り駅の間を南北に結ぶとともに東西方向にも伸ばし、十字型の紙屋町シャレオが2001年にオープン。紙屋町交差点の慢性的な交通渋滞を解消するとともにNTT基町再開発事業により1994年に開業した基町クレド（そごう新館、パセーラ、リーガロイヤルホテル）と相まって都心の集客力アップに寄与している。



・「ヒロシマの思想」の構想

広島の平和運動や核兵器廃絶のアピールが願望に終わっては意味がないので、具現化するための論理的研究や政策の立案化のため、市立大の附属機関として広島平和研究所を1998年に開設する。

平和に向けた市民運動を支援する広島平和文化センターと行政の平和首長会議（当時は世界平和連帯都市市長会議）と広島平和研究所の3つの活動をうまくかみ合わせて、少しでも前進させたいという思いをもって、「**ヒロシマの思想**」を確立する構想を持つ。

日米安保体制における核の傘の下で、核兵器廃絶を訴える矛盾は今なお解けないが、核兵器がある限り真の平和は訪れない。廃絶の道筋と廃絶後の平和のあるべき姿を追い求めている。

・その他の動き

1981年に基本計画策定の広島駅南口Aブロック再開発が頓挫していたが、地権者の同意を取り付ける。1999年に完成し、福屋が入居するエールエールA館と地下広場がオープン。

1993年に広島空港が開港すれば、西飛行場は廃港予定であったが、広島の都市機能としては必要不可欠と判断し、存続を決定。ただし、2012年に供用廃止。

2002年の日韓共催によるサッカーW杯の国内開催地を広島に呼ぶため、ビッグアーチのバックスタンドに屋根を架ける案が浮上したが、1996年に費用対効果が合わないため却下。代わりに1998年に旧市民球場の移転候補地として貨物ヤードを取得。

（経歴）

1927年生まれ、広島市出身、広島市とソウルで育つ。早稲田大学卒業後、中国新聞社に入社。常務取締役編集局長を経て、中国放送専務に転出し、その後社長。1991年の広島市長選で初当選し、1999年まで2期在職。市長退任後は中国・地域づくり交流会会長を務めるなど地域振興に尽力。2004年に谷本清平和賞を受賞。現在89歳。

（参考資料）

中国新聞朝刊掲載「生きて」（2009年9月～11月）

平岡敬インタビュー「平岡敬とヒロシマの思想」（2010年）

（編集委員 瀧口信二）

○ 人物登場：杉田 宗氏（建築家・広島工業大学環境学部建築デザイン学科助教）

米国で最先端の建築技術を学び、親元の設計事務所の勤務を経て、大学で教鞭をとる若き建築家の登場である。

★ これまでの軌跡

広島に生まれ育つ。高校3年の時、交換留学生として米国で過ごし、そのままニューヨークの大学に進み、インテリアデザインを学ぶ。在学中に9.11テロが発生し、学園内が意気消沈したため1年間休学を取り、バックパッカーとしてヨーロッパを旅する。大学卒業後、米国(2年)と中国(1年)の設計事務所を経験した上で、大学院修士課程に進み、コンピューターを駆使した最新の建築手法を学ぶ。その手法を日本で活かせるか不安もあったが、2代続く事務所を将来引き継ぐため2010年に広島に戻る。

2012年より2年間、東京大学の国際都市建築デザインコースのアシスタントを務め、2015年から広工大の助教として、建築を主語としたデジタルデザインを教える。

★ 広島工業大学での仕事

現在、2016年に改編された建築デザイン学科にて、米国で学んだ先端の設計技術の講座を担当。コンピューテーショナルデザイン、デジタルアプリケーション、ビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)の3本柱を教える。

設計条件を与えれば最適な設計が出来上がる人工知能システムにも取り組み、未来の建築現場が人間と3Dプリンターとロボットが協力して働くハイブリッドな空間になることを目指す。

まだ他の大学では導入されていない新分野の建築人材育成に取り組み、自分の得意な武器を持って社会に飛び出せる学生を育てたいという当面の目標を持っている。

★ TREES WORK SESSION について

TREESは若手の建築家やデザイナーが集うトークイベントの会。2015年にその会のメンバーが中心となって「宮島口まちづくり国際コンペ」に参加。建築家は他の職種の人と組んでチームを作る。最初にみんなで意見交換する場を設け、次に現地調査(ワークショップ)をし、締め切り1か月前に各チームの発表会を行う。その過程をすべて市民にオープンにした。

昨年秋の旧広島陸軍被服支廠倉庫のイベントでは、見学会に合わせて模型作りのワークショップを開催。見学者にも参加してもらい、出来上がった模型は倉庫近くに置いて、旧被服支廠に対するコメントやアイデアを付箋で張り付けてもらう。

建築の在り方や使われ方は建築家だけでは解けない課題が沢山あり、多くの知恵を集めることが大事と思っている。上記二つのまちに開かれたイベントでは、専門家以外の住民などの視点が入り、新たなまちづくりのアプローチにつながっていくのではないかと。

★ まちづくりの動向

まちづくりも建築家の専売特許ではなく、最近ではIT系やイノベーション関連の人たちのテーマとなっている。そちらの方がイベントも動員力があるし、幅広い内容が語られている。

ロンドンでは行政主導のまちづくりから市民参加型に移行し、議論では結論を出さない方針という。多様な意見の中からヒントを得て、それを具現化できる人たちが議論に参加している。

一つに案を絞るのも大事なステップだが、散在しているいろいろな意見を拾い上げる作業が一番難しく価値のあることである。そこを疎かにすると実のあるプランにならない。

★ 平和の先に何がある？

平和都市に辟易している人も多いと思うが、広島にしかできないことを目指すべきである。自分の研究室が中心となって活動しているヒロシマ・デザイン・ラボのテーマとして「**PEACE and Beyond**」(平和とその先)を掲げている。広島もこれまで追い求めてきた「平和」の先に、何があるのかをみんなで考えられるまちになれば、次の布石になるのではないかと。

多くの人と関わりながら共に考えていきたい。

コメント

新しい世界を切り開いていこうという気概を感じた。これからの活躍に期待したい。

聞き手：編集委員 前岡智之、瀧口信二(文責)



略歴:1979年広島市生まれ。2010年ペンシルバニア大学大学院建築学科修士課程修了後、杉田三郎建築設計事務所入社。現在広島工業大学助教

○ ひろしま市民ひろばの提案！ (最終回)

日本建築家協会中国支部広島地域会のまちづくり委員会が検討してきた平和記念公園と広島市中央公園及びその周辺の被爆 100 年（28 年後）のあるべき姿をここに要約する。

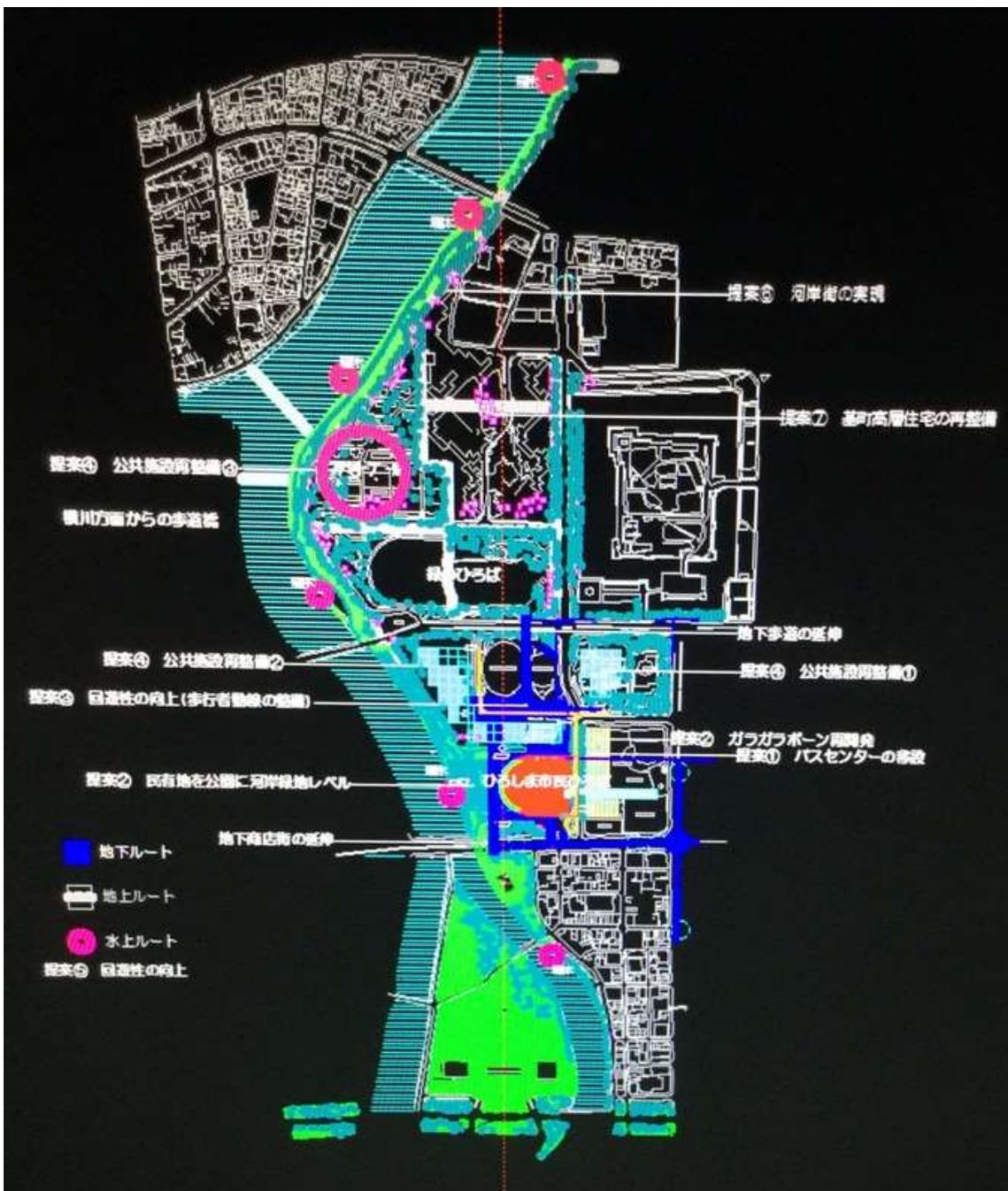
☆全体計画図（案）

なぜランドデザインは必要なのか

広島中央公園地域は、被爆後の復興を経て、広島市の都心のコア空間として位置付けられている。被爆後 72 年を過ぎる今日、幾つかの課題をもつと共にその潜在的な可能性を充分には発揮していないことをここまで指摘してきた。被爆 100 年を目標年とし、時代の変化を考えて検討し直す時期が来ている。

この地域における長期間かつ広範囲にわたる計画であり、多くの人たちが関わるので、個々の方策や手段を考えるときに総合的なランドデザインが不可欠である。もちろん、ランドデザインは策定するプロセスや策定に関わった人たちの合意形成の過程が最も重要である。

この提案が、そのためのたたき台としてこれからの検討に資するならば幸いである。



★基本理念

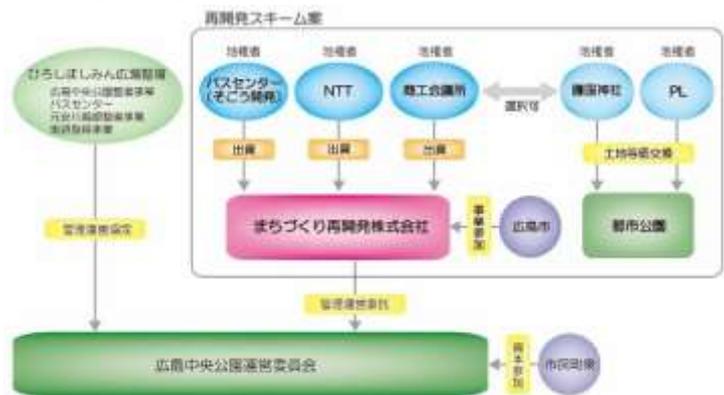
広島のみちづくりの憲法ともいえる「広島平和記念都市建設法」の精神に基づき、平和記念公園から広島市中央公園一帯が**国際平和文化都市ひろしま**を象徴する空間となるように、未来に向けて発展させる。

★基本的な考え方

- ・原爆ドームを中心としたこのエリアは、広島から世界に恒久平和のメッセージを発信する重要な役割を担っているため、平和の祈りと平和の実感が連続して体験でき、市民のみならず国内外の多くの人が出会い、交流する緑豊かな空間とする。
- ・特に、旧球場跡地エリアは、平和記念公園及び原爆ドーム周辺と中央公園内にある文化施設群や芝生広場などのオープンスペースをつなぐ場所に位置するため、世界遺産のバッファゾーンとしての品格ある雰囲気と都市的な賑わいのバランスの取れた空間とする。
- ・旧球場跡地エリアは**ひろしま市民ひろば**（仮称）とし、様々な用途に利用できる可変性のある空間とする。その周囲に広島の歴史や日本文化に触れ、来訪者が互いの国の理解を深め合える機能を備えた国際文化交流施設を配置する。
- ・元安川及び環境護岸と緑道により平和記念公園、原爆ドーム、中央公園はつながっている。旧球場跡地エリアと基町環境護岸を一体化させ、土手沿いのリバーウォークと雁木を利用した水上交通を拡充することにより、このエリア全体と街とのつながりを強固なものとする。
- ・リバーウォーク（愛称：基町ポップラ通り）の中央公園側には公的な貸店舗を適宜配置し、親水広場や雁木タクシーの川の駅などと相まって賑わいのある河岸街を形成する。
- ・幹線道路により分断された南北の動線を立体交差により解消し、ひろしま市民ひろばを中心とした歩行者用のネットワークを作る。
また、周辺の電車、JR、アストラムラインの最寄りの駅とのアクセスを改善し、まち全体の回遊性を向上させる。

★実現に向けて

- ・商工会議所ビル等の河岸沿いの建物を移転させるため、NTT所有地の一角を確保し、NTT、商工会議所、バスセンターなどが中心となって再開発事業に取り組む。
再開発ビルはひろしま市民ひろばに開かれている。バスセンターは2階にバスが乗り入れ、1階に玄関ホールなどを想定している。
- ・既存の老朽化した市の建物（青少年センター、こども文化科学館、中央図書館、ファミリープールなど）は新たなニーズに対応したメディア、文化、科学、国際、こども施設に再編し、新たに追加する国際文化交流施設とともに適正再配置を行い、予算の裏付けに基づき計画的かつ段階的に整備する。
- ・基町住宅団地も中層住宅は順次解体して公園に戻す計画である。高層住宅の方は耐用年数まで残すとして、管理運営などソフト面を工夫し、宿泊施設や事務所・店舗など柔軟に用途変更可能なシステムとする。特に地上部分のピロティと屋上庭園は設計当初の意図を尊重し、市民に開かれた空間として周辺環境との調和を図る。
- ・世界から英知を集めるため、公共施設等の適正再配置案と長期予算計画案が揃った段階で、基本理念、基本的な考え方など設計条件を整理し、ひろしま市民ひろばを中心としたエリアを対象に国際コンペを行う。



再開発スキーム案及び中央公園の管理運営体制案

（日本建築家協会広島地域会まちづくり委員会）

○ こまちなみシリーズ ⑱ (総集編)

金沢市はまちの歴史を色濃く残した、ちょっとした町並みを「こまちなみ」として守り、育てるまちづくりを進めている。これに倣って、広島における残しておきたい「こまちなみ」を探訪し、紹介してきたが、最後に取りまとめを行う。

☆こまちなみの分析

これまで紹介してきた「こまちなみ」は、西国街道(旧山陽道)、雲石街道、銀山街道(石州街道)などの古い町並みが少し残っているところが多い。宿場町が多く、大名が泊まる本陣(跡)、神社仏閣、古民家や商家など歴史的な文化遺産を辿る「まち歴史の散歩道」として親しまれている。多くの場合、市民グループが「まちづくりの会」を作って、保存活動やまち巡りなどの企画・運営を行っている。

玖波、廿日市・地御前、草津、海田、西条、可部、三次、吉舎、上下、府中、神辺、東城などがこれに該当する。

上記の中で、下線を引いた9地区は中国地方整備局などが認定する「夢街道ルネサンス」に選ばれている。夢街道ルネサンスは、歴史や文化を今に伝える中国地方の街道を認定し、個性ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目指しており、「こまちなみ」のイメージに近い。

竹原や宮島などの国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)およびそれに準ずる地区も紹介したが、それらは「こまちなみ」の定義からは少し外れている。

金沢における「こまちなみ」は、重伝建地区ほど面的な広がりや質的な純粋性はないが、城下町らしい、ちょっとしたよい町並みとしている。さらにそこに住んでいる人たちの生活感を重視している。古い町並みが残っていても、空き家が多くては「こまちなみ」とは言えない。

横川駅界限、呉などの商店街は戦後建てられたものだが、店舗や飲食店が集中し、その猥雑感が人を引き寄せている。尾道は北前船の寄港地で物資の集散地として栄えた商都であり、尾道本通りはレトロな雰囲気を残している。

今シリーズで紹介した「こまちなみ」のうち、9か所を三宅恭次氏が執筆。人情味あふれる描写にファンが多かった。ここに謝意を表しておきたい。

☆ひろしまに新たなこまちなみはつくれるか？

広島市内は被爆により一面焼け野原となったが、戦後の復興により町並みが形成されてきた。昭和56年に広島市都市美計画が策定され、今では景観法に基づく事前の届け出が求められているが、果たして「こまちなみ」が出現するであろうか。「こまちなみ」は見た感じが良いだけでなく、そこでの生活感がにじみ出ているのが望ましい。

・アリスガーデンや袋町公園などはイベント等が開かれ、多くの人が集まる。賑わいのある広場に面する道路沿いにはオシャレな店舗が増えている。

・並木通りでは歩道の植え込みは住民が手入れをし、所々にベンチが置かれ、オープンカフェもある。人が行き交い、落ち着いた雰囲気が漂う街並みは心地よい。

・猿猴橋の復元を機に西国街道が見直されている。昔の面影を求めるのは無理としても、街道沿いはゆるやかな建築協定を結んで、時間をかけて新たな西国街道を形成することは可能と思う。

・基町ポップラ通りは川に開かれた気持ちの良い散歩道だが、中央公園側にギャラリーやオープンカフェなどしゃれた店舗が軒を並べれば、人気どころとなるであろう。

戦後、生まれ変わった広島にも「こまちなみ」と呼べる地区が増えていくことを期待したい。



可部の町並み



玖波宿の町並み



神辺本陣跡



竹原の本町通り



横川の星のみち

(編集委員 瀧口信二)

□ほっとコーナー

『自然とアートと平和と』

特定非営利活動法人 Heart of Peace ひろしま代表
中川圭子

私の人生の大きな転換期であった1999年～2000年。

自分の中に響いた「ひろしま」を自問自答し始め、いつの間にか、平和・環境の様々なイベントに関わっている自分がありました。

「子供たちにどんな未来を、地球を、残してあげることができるのだろう～。私にできることは・・・？」そんな事ばかりを考えていたら、還暦を前に今までの仲間達とNPOを立ち上げていました。「ひろしまから音楽を通じて世界に平和を発信したい！」ひとつの思い、きっかけ、出会いが、大きな波紋となって繋がり、広がっています。

先日、この広島・長崎の日を挟んで、旧日銀広島支店で開催した「平和と美術と音楽と」が無事終わりました。

自分に疲れた時、朝早く起きて、海から昇る朝陽を見始めた事からいろいろな価値観が変わってきました。

会期中、浜にスペインのアーティスト、アンヘル・オーレンサン氏をご案内したら、それからほぼ毎日の様に、朝陽と共にこの浜で子供の様になってその場にあるもので、インスタレーションし、壊していく様を目の当たりにし、アートと自然の融合の素晴らしさを体感しました。

だんだん朝のインスタレーションの参加者も増え、みんな、まるで子供の様になって楽しみました。夢の世界がここで繰り広げられたのです。

私の中に彷彿と湧き上がっていた「未来の子供達に残したい、平和の森、アートの森、いのちの森・・・」を夢見て・・・。



○ 読者からの投稿

かき船裁判のその後

世界遺産・原爆ドームを守る会 事務局長
馬庭 恭子 (広島市議会議員)

道端の立ち話のなかでも「そういえば、あのかき船問題は怎么样了のか」とよく聞かれます。それは地元の大手町以外の場所でも、決して忘れられていないのだなと思うことしきりです。8月6日の原爆の日も「あのかき船が河岸にきて景観が違って見える」「一体あれはなんですか」「公共の建物ですか」と県外の方々からも多くの声が寄せられています。

裁判も7回意見陳述があり、あと2回程度開催される予定で、今年度中にいったん結果がでるのではないかと推測しています。裁判の費用対効果？を考えてのことか、裁判結果を早く出すことがどうも上層部からのお達しのように、「2年以内に結審させることは至上命令らしい」と弁護士からの報告を聞きました。

このかき船問題は、関心のある方は裁判所に傍聴に来られ、傍聴席はほぼ満席状態を保っています。ご町内の地元の方々は無論ですが、ヒバクシャ団体のの方々も多く来られています。また、傍聴後に開催される弁護士からの報告会も満員状態で、熱心に裁判の今の進め方、内容、どこがいま争点かなど、3人の弁護士からわかりやすく丁寧に説明があり、質疑応答が繰り返されています。

こういった地道な戦いをしながら、一方では、この7月にかき船問題を世界に広めて、応援してもらおうと「かき船を考える会」と共同して、第41回ユネスコ世界委員会に先だって開催され、そのサポートが評価されているNGO【世界遺産ウォッチ】の国際会議（ポーランドで

開催)に参加することができました。メンバーを会議に送り込むことができたのはみなさんのご理解とカンパのお陰とみんなで喜んでいきます。

その結果、2日目の閉会時には、『世界遺産委員会に現地調査を要望する』という決議文が採択されました。裁判になってからは、世界からも「この現状はおかしいのではないか、ふさわしくないのではないか」という声を拡散していこうと東京のイコモス委員会のご協力を得ながら行動してきた賜物です。今後もNGOへの働きかけ、イコモスとの情報交換をはじめ情報の共有を図ってこの実態を世界へ発信して参ります。

□ 編集後記

これまで掲載してきた幾つかのシリーズが終わりました。市民投票による全国公開アイデアコンペに始まった広島中央公園グランドデザインの提案は、一旦取りまとめました。これからは、この案を皆さんに示して意見交換・合意形成の段階に入ります。ぜひ参加してください。その場所、時間は追ってお知らせします。

また広島のコまちなみシリーズも一応のまとめとなりました。戦後の広島市長の業績紹介シリーズも平岡市長まで来ました。

さて、次号からどんな新シリーズが始まるかご期待下さい。

広島市でまちづくりというとまず世界平和への対応が問題となります。あの悲惨な体験は二度とあってはならないと・・・・それにしても物騒な時代ですね。何かできることは無いのでしょうか。

(編集委員 前岡智之)

○お知らせ：「時代を語り建築を語る会(第18回)」開催

- ・語り人：衣川知考氏(カオル建設社長)
- ・テーマ：広島地域における住宅リフォームの課題と取り組み
— 耐震性向上、バリアフリー化、断熱性問題等への対応 —
- ・開催日：2017年9月27日(水) 18:30~20:30
- ・会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ 研修室A(北棟5階)
(旧広島市まちづくり市民交流プラザ)
- ・会費：1000円(資料費・会場費)、学生・院生は無料
- ・参加申込の連絡先：広島諸事・地域再生研究所
電話/FAX：082-223-7226 メールアドレス：nisimar5@hotmail.com
- ・主催：時代を語り建築を語る会実行委員会(代表 石丸紀興)

*メルマガを読まれたの感想や質問及びひろしまのまちづくりについて

皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください!

(投稿は500字程度以内でお願いします)

編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視	心豊かな家庭環境をつくる広島21理事
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表
三宅恭次	元中国放送役員